

# 被災地外から派遣された看護師への支援に関する文献検討

○香川 季栄, 瀬尾 彩穂里, 下元 誠也, 大塚 万愛, 難波 峰子 (関西福祉大学 看護学部)

## I. はじめに

日本はじめ地球上では、地震や大雨などの自然災害が頻発し、それに伴い看護師が派遣される機会も増加している。派遣された看護師は、身体的・精神的影響を受けることは、報告されている。しかし、派遣元や職種、ストレッサーとストレス反応が明確でない論文も多い。そこで本研究は、被災地外から派遣された看護師のストレスについてストレッサーとストレス反応をできる限り分け、ストレスを強く感じる災害現場での支援活動を行う看護師に必要な支援を考察することを目的とする。

## II. 研究方法

### 1. データ収集方法

医中誌 web を用い、2011 年～2024 年 5 月までの期間に刊行されている文献を検索した。検索は、3 つのキーワード「災害」「看護師」「ストレス」で検索し抽出された文献を精読した。その中から (1) 被災地の支援者 (2) 発表時期が 2011 年からの論文 (3) 原著論文の 3 条件を満たしている文献を更に抽出し、分析の対象とした。

### 2. 分析方法

対象とした文献を精読し、文献レビューマトリックスを作成し整理した。

文献レビューマトリックスの縦軸と横軸は、縦軸には対象文献、横軸には (1) 著者名 (2) 書籍情報 (3) 研究目的 (4) 研究対象 (5) 研究方法 (6) 研究結果 (7) 論文から得られた知見の項目を設定した。その後、支援者のストレッサー、ストレス反応、対処行動に関する内容を抽出した。

## III. 結果

「災害」「看護師」「ストレス」のワードで検索した結果、129 件の文献を抽出し、(1) 被災地外の支援者 (2) 発表時期が 2011 年からの論文 (3) 原著論文の条件を満たしている文献 6 件を抽出した。支援前には、【派遣要請時の混乱】があり、「事前情報の不足」や「自信の無さ」など 3 項目がストレッサーとして挙げられ、それらが【予期不安】というストレス反応に繋がっていた。支援中には、【被災状況】【支援者の生活状況】【業務内容】の 3 項目がストレッサーとして挙げられた。その中で、【被災状況】では「環境」「ライフラインの障害」の 2 項目、【支援者の生活状況】では「生活環境」「睡眠」などの 4 項目があり、それらが「睡眠不足」や「疲労感」といった【身体的症状】などのストレス反応に繋がっていた。また、【業務内容】では「不十分な実施支援」や「指揮命令の不十分さ」などの 6 項目が挙げられた。それらが、【気持ちの落ち込み】【怒り】、【充実感がない】といったストレス反応に繋がっていた。支援後には、【支援活動の振り返り】がストレッサーとなり、【フラッシュバック】や【回避行動】というストレス反応につながっていた。また、災害支援の参加を通して【気持ちの落ち込み】や、【支援後も気持ちを引きずる】、【回復しない疲れ】の 4 項目のストレス反応に繋がっていた。

## IV. 考察

これらの結果より、派遣要請時に混乱があり、具体的な混乱の内容としては、通常の体力不足や支援活動のイメージができないといった調査結果があることから参加意志を持つ看護師には、平時より準備することが必要だと考えられる。なお、活動中にも情報が不十分であることや指揮命令系統が混乱していること、できる支援に限度があり十分に支援できないという状況があり、身体的・精神的な負担が大きいことから支援前より指揮命令系統や他機関との連携のシステム作りを行っておくことが重要であると考えられる。支援後の看護師への精神的サポートが十分でないという論文があることから支援中だけでなく支援後にかけても継続的なサポートが必要であると考えられる。